

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572208916		
法人名	有限会社エルアイズコーポレーション		
事業所名	グループホーム水沢の里		
所在地	秋田県山本郡八峰町峰浜水沢三ツ森字カッチキ台3-1		
自己評価作成日	令和1年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和1年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中にホームがあり、避難訓練や行事があった場合には、地域住民の協力が得られている。また午前中に体操、午後にレクリエーション、お菓子づくり、壁画作り、家事手伝いなどの活動する機会を多く設けている。
経験年数の多いスタッフも増え、より良いケアができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の協力を得ながら利用者が安心して生活できる環境づくりに努め、1人ひとりの心身の状況に合わせた暮らし方ができるよう日々の観察を怠らず、利用者とお話しを大切に支援しています。運営推進会議参加者からも積極的な発言がみられ、災害対策について話し合ったり、地域情報の提供もあり、協力を得ながら利用者支援に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常にみえる所(二か所)に掲示しており、常に目に触れる事で、理念の共有に努めている。	利用者を理解して理念に沿った支援ができるよう取り組んでいます。新任職員に対しては日々の業務を通じて伝えられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ地域内のコミュニティセンターで救命救急講習を実施したり、避難訓練のときも住民の協力を得る事ができている。	子供神輿がホームを訪れたり、近所の方とは散歩の際に自然に挨拶を交わす間柄であり、職員の都合で町の催しに参加できないこともあります。地域の方と接する場を設ける努力をしています。	運営推進会議で得た地域の情報やお誘いを活用して繋がりを広めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	避難訓練など地域の方が行事に参加するとき、利用者の特性や症状、対応方法を伝え、認知症への理解を深めていただけるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の担当者、自治会の役員、駐在所職員などに参加していただき、いただいた意見は積極的に取り組む努力をしている。さらにその改善した内容をスタッフ間で共有しサービス向上に努めている。	会議では参加者から多くの意見をいただくことができ、ホームの運営や支援に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	対処に困った案件は包括支援センターや役場の福祉保健課の職員に相談し、解決へむけた取り組みをしている。	疑問点や困った時に連絡を取って実情を伝えながら助言をいただいたり、また、ホームに立ち寄っていただくこともあり、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年6回運営推進会議と同じ時に身体拘束委員会を開いており、その内容をスタッフで話し合ったうえ、身体拘束委員会で話し合い、様々な方向から意見をいただき、身体拘束防止を心掛けている。	新任職員は状況に応じて対応を管理者に確認しており、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段のケアの中でスタッフ同士で話をし、具体的な防止策や対応を意識しながら過ごしている。またこれからは、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を定期的に設けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在いる利用者様が利用した方が良いのではないかと意見が出ており、具体的にどんな支援なのを伝えるよう努力はしている。実際に活用できるよう町の社協と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明の段階や契約時、また退所時には家族の不安や心配、質問を話しやすい雰囲気而努力している。また、退所時は不安が軽減するようスタッフが家族と連絡を密に取り合うよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前や面会時に家族から希望や要望を伺い、反映できるように努力している。また、普段の生活や会話の中からも思いをくみ取り運営に反映できるよう心がけている。	以前は家族からなかなか意見を聞き難い状況でしたが、応えやすいように話しかける工夫をして意向の引き出しに努めています。遠慮があるとは思えるもの話してくれるようになり、意見を反映できるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	備品の故障や不具合、不足している物などは直ぐに対応していただき、利用者様に不便が出ないように対応して頂いている。また、月1～2回程度本部の方がホームにきてスタッフの意見や提案を聞いていただける機会がある。	管理者は職員と積極的に関わりを持って話を聞くようにして意見の把握に努め、代表に伝えていきます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの希望を反映した勤務時間や休日になっている。また、職員の働きに対しても労いのことばなどかけていただき、職員の気持ちの面にも配慮していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者自身も研修に積極的に参加して、常に新しい情報を取り入れようと心掛けている。また、無資格のスタッフに資格取得できるよう会社で配慮して下さっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員連絡協議会に代表者自身が参加し、ネットワーク作りをしている。職員同士でのつながりが少ない為、外部研修に参加して交流する機会があればよいと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、見学を促し、どんな方がいるかを実際見ていただく機会を作っている。また、既存の利用者様からも声をかけていただき、安心できる環境だと感じてもらえるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を軽減するため、家族の不安に寄り添い、希望や要望を話しやすい関係づくりを心掛けている。要望を引き出すために具体的に「○○とうことをやって欲しい」など話、希望や要望を伝えやすくなるよう工夫している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事での一場面で、分からない事を尋ねたり、一緒に考えることを心掛けている。また、味見などをしていただいて、感想を反映するなど普段の暮らしの中でのコミュニケーションをとり支え合う関係を意識している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの家族と連絡を密にして、協力していただきたいことをお伝えしたり、面会に来た時に積極的にコミュニケーションをとって家族と一緒に支えていく関係を心掛けている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までかかっていた病院を継続してかかりつけ病院にするようにしている。そこでの看護師や医師との関係が継続していけるように支援している。	家族にも協力を求め、これまでの楽しみや習慣等の継続に繋がっています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が声を掛けあって、助け合っている姿が見られる。また利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行くようにスタッフが配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後退所になった利用者様のご家族様から、入院中や退院時の事で相談があり、ホームで出来る範囲で困りごとに対してフォローする機会があった。今後も退所後も必要があれば、なるべくフォローしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活に慣れてきたころは安心して過ごせるようになってきているが、入居時は時に意識して利用者様の思いや暮らしの意向を把握するよう心がけている。	普段の関わりの中で利用者の思いや意向を探り、職員間で情報の共有を図って生活に取り入れていけるよう取り組んでいます。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネさんから情報をいただいたり、ご家族様から今までの暮らし方や、生きがい、仕事など生活に関する情報を多く集めるよう心がけている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日ごとに違う変化に気付いて、その時にあった対応をすることができていると感じている。また、普段の会話や一緒に作業することで、出来ている部分を発見するよう心がけている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはスタッフと一緒に評価している。またその時に、今後のケアの方法やアイデアが出た場合はケアプランに反映する様にしている。	介護計画はカンファレンス等で協議し、利用者、家族の意向を踏まえて作成しています。記録の仕方や様式を見直ししながら、介護計画の効果的な見直しに繋げるために努力しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を少しずつ出来るようになってきた。今後はより具体的な内容で記録し、工夫したことや対応の内容を情報共有して、さらに実践につなげていきたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への案内をいただくことがあるが、なかなか参加できずにいる。これからは、地域の資源の把握や活用を検討していきたい。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者様やご家族の希望をお聞きし、今までかかっていたところに通院できるように支援している。また、病院や薬局との関係を密にできるよう日頃から気を付けており、適切な医療を受けていただけるよう支援できている。	利用者、家族の希望に沿ってそれぞれのかかりつけ医で受診しています。歯科受診には訪問診療が可能であり、薬局とも処方薬を届けていただく等の協力関係を築いています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護師がいないため、かかりつけ医の看護師との関係を作って、異変があった場合は電話で相談したりできるようにしている。今後は訪問看護師の導入も検討していきたい。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にこれまでの生活状況をお伝えし、退院時に望ましい状態をお伝えすることで、すぐに退院対応できるようになってきた。また、退院前には実際に本人の状態把握に努め、退院後もスムーズにケアしていけるよう心がけている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に万が一の緊急時の対応をどうするかご家族で話し合うようお伝えし、ホームでできることと出来ない事をお伝えして。医療行為が必要になった場合は適切な場所を紹介するようにしている。	対応可能なかかりつけ医を持つ利用者もおりますが、ホームの体制が整わず、看取りに対応できない旨を説明しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に避難訓練時に救命救急講習をうけるようにし、万が一の対応に不安がないように繰り返し実践できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練は年2回実施しており、様々な想定をすることで、より良い体勢になってきている。また、消防署員や地域住民に相談し水害時対応や避難場所について話をすることができた。	運営推進会議でも話し合っ近隣の協力体制が確認され、参加者の助言も活かせるよう取り組んでいます。非常口の段差が解消され、車椅子利用者も安全に通行できることが避難訓練の際に確認できています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に伝わりやすい言葉を選び、状況にあったコミュニケーションを心掛け、思いを尊重する言葉かけを心掛けている。	利用者の気持ちを大切に支援が行われています。排泄用品の処理に配慮する等、誇りを損ねないよう対応しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断能力に合わせた自己決定方法を選択し、提示することで自己決定の回数を増やす事ができていると感じている。今後も工夫の余地がないか検討していきたい。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるものの、体調や本人の希望に合わせた生活を送れるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色の衣類を好んで着る方がいたり、一日何度もチョッキを着替える人もいますので、その方の体調が悪くならないか観察しながら、自由なおしゃれを楽しんでいると感じている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものを提供するように心がけ、その人の好みを把握し、別な素材を提供することがある。また、食事の片付けは利用者様と一緒に分担作業で片づけが習慣化してる。	皆で外食に出かけることはありませんが、駐車場を利用して昼食を摂ったり、お菓子をつくったり、行事食の提供もあり、楽しく食事ができる工夫をしています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気で塩分制限やカロリー制限のある方がいないため、一人一人の状態に合わせた量を把握し、その人に合わせた支援ができている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うことを習慣になるまで、継続して支援し、口腔内の清潔を心掛けている。また、トイレのあとに声がけするなど配慮することで、嫌がる人も口腔ケアをしてくれるようになってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりで退院してきた利用者様でも、排便はトイレで促したことで定期的に排便して下さるような事例もあった。布パンツの利用者様も3名いて、出来るだけ長く布パンツ使用していただけるよう支援していきたいと思っている。	1人ひとりの排泄パターンを把握し、状況に応じた支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分量を把握したり、運動を促したりしている。それでも出ない場合は薬を使用し、便秘から不穏にならないよう体調を整えるように心がけている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全ての希望した時やタイミングで入浴出ているわけではないが、週4回程度入浴できる状態であるため、その人の体調に合わせて予定していた人と交換したりできるようにしている。	体調をみながらシャワー浴も併用し、清潔に過ごせるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースを尊重するよう支援しているが、臥床時間が長い人が生活不活発病にならないよう声かけを多くし、関わるように意識している。また夜にぐっすり眠れるようある程度の日中の活動できる場を増やすよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの内服している薬の内容がいつでも見られるようにケースファイルに入れており、副作用らしきものがあつた場合は薬局に問い合わせできる体制になっている。また、薬の効き方を観察し、次回の受診時に主治医に報告し、指示を仰いでいる。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中でスタッフ共にやる作業(テーブル拭き、おぼん拭き、ちゃん拭き、おしぼりたみ、洗濯たみなど)を複数名で行うようになってから継続して自然におこなえるようになってきていると感じている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿つて戸外にできることはあまりできないため、利用者家族様にご協力いただいたり、玄関先でひなたぼっこしたりして対応している。	季節の花見に皆で出かけ、散歩や外でお茶をいただいたりして外の空気に触れる機会をつくっています。家族と外食に出かける方もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っていない利用者様が増えているが、お小遣い程度のお金を所持している利用者様は数名いらっしゃる。その方は受診時に好きなものを買って食べたりしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が難しいご家族様には、電話しても良いか事前にお伺いし、御協力いただいている。スタッフから電話する事も出来ると提案することもあるが、あまりかけたがらない方が多かった。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境には気をくばり、温度湿度を快適にしトイレなどの表示も解りやすいマークを使用する等、混乱しないよう配慮している。また、季節の壁画を作る事で現在の季節が分かるよう配慮している。	近所の方が提供してくれた壁飾りや置物を飾り、利用者と一緒に作った季節の作品を掲示しています。日中をホールで過ごす方が多く、加湿器で乾燥対策をしながら自由に過ごしていただいています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外共用のくつろげる場所がほとんどないため、食席の組み合わせには気を使っている。 (話がしやすい人と近くになったり、仲の良いひとと近くにならないように配慮している。)		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものを持って来ていただけるようご家族にお伝えするようにしている。また、ダンスの中も自由に出し入れできるようにしている。	利用者それぞれの状況に応じ、本人ができることを引き出す工夫をしながら持ち物を配置し、1人ひとりに合わせた環境づくりに配慮しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖ホルダーを洗面所と食堂に設置し、杖を使いやすく安全に使用できるように工夫している。また、安全を配慮し、赤外線センサーを使用したり、自立した生活ができるよう介助バーを使用することで安全と自立を両立できる環境になるよう心がけている。		